2025年度上期

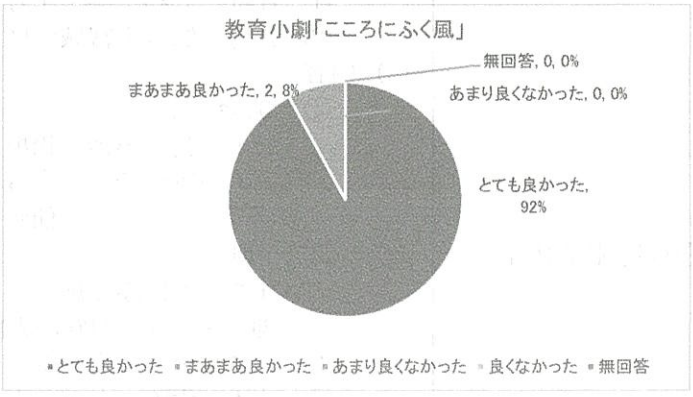
2026年5月29日

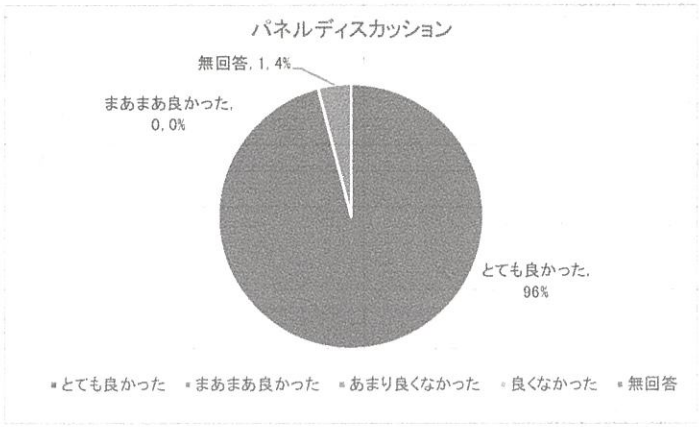
みやぎ生協　福祉活動助成金　助成活動報告書

団体名	教育の未来を支えるネットワーク	
代表者名	松坂　宏造	
連絡先 TEL：090-4637-7591 FAX：022-378-1293		E-mail　reiteru999@gmail.com

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	第１０回教育の未来を支えるネットワークフォーラム
事業の目的	宮城県や仙台市の教育のさらなる充実・発展を目指し、社会総がかりで学校教育や社会教育を支援する仕組みを構築することによって、広く社会の中で、教育への理解を含め、子どもたちの豊かな未来の創造に寄与する。
事業の具体的内容	(1) 事業名 「第１０回　教育の未来を支えるネットワークフォーラム」 ～昭和100年、子どもたちの育ちを支えるために 今、何を残す？何を変える？～ (2) 会場・期日 ① 日時　令和７年１１月２９日（土） ② 会場　仙台市宮城野区文化センター　パトナシアター (3) 内容 ① 開会行事 ・開会の挨拶　松坂宏造代表 ・来賓祝辞　宮城県教育委員会教育長 仙台市教育委員会教育長 ② 小劇 「こころにふく風」 脚本・演出　NPO法人劇団仙台小劇場　石垣政裕 ③ パネルディスカッション 「オトナのつながりと子どもの育ちと」 パネリスト 高橋由臣：前仙台市PTA協議会会長 阿部清人：(株) MCラボ社長・サイエンスインストラクター 斎藤純子：榴岡児童館館長 田辺泰宏：元仙台市小学校長会会長 コーディネーター 野澤令照：教育の未来を支えるネットワーク事務局 ④ 閉会行事

	・閉会の挨拶　山口哲男副代表
活動の開始から完了までの流れ	1　フォーラムの企画 ・毎月開催する例会において、今、教育を取り巻く環境が大きく変化しているが、改めて不易と流行について考えることが重要だという話になった。 昭和100年になる今、私たちが後世に残して行くべきものは何か、時代の進化に沿って変えなければならないものは何かについて話し合った。 ・こうした話し合いの中から、今回は、「昭和100年　子どもたちの育ちを支えるために・・・今、何を残す？何を変える？」とすることになった。 2　フォーラムの内容 ・小劇によって問題提起を行い、それを受けてパネルディスカッションで話を深めていく構成とすることとした。 ・パネラーには、子どもや親に関わっている様々な立場の方たちにお願いしようという意見でまとまった。 ・１０回目という節目の大会でもあるので、我々教育の未来を支えるネットワークフォーラムのメンバーを中心に人選を行った。 ・外部からは、PTA協議会の会長を務めた高橋正臣氏をお招きすることとした。 3　フォーラムの準備 ・ネットワークのメンバーが中心になり、小劇の練習を重ねた。脚本、演出を石垣氏、劇の練習には仙台小劇場の方々にも協力していただいた。 ・フォーラム前日に会場の準備。 4　フォーラム当日 ・午前中に準備と小劇の練習を行って本番を迎えた。
活動の成果と教訓	＜教育小劇「こころにふく風」＞  ○　参加者のアンケートでは、「教育をめぐる様々なホットな論点が重層的に脚本に盛り込まれており，ディスカッションにつながる大変すばらしい内容だと感じました。」「教育現場のリアルを実感を持って演じられていて様々考えさせられました。様々な受け取り方，感じ方があろうと思いますが，それぞれ“こころにふいた風”を大切に，子供と向き合っていければと思います。」「考えさせられる内容の濃い演劇でした。「教員の仕事は子供と向き合うこと」という言葉は，教育の原点であることを改めて認識しまし

	た。」などの感想が寄せられた。新たな発見があったり、良い学びを得られたりしたことが伺える。フォーラムに対する満足度が高かったことが分かる感想が多く、目的を十分達成することができたと考える。 ＜パネルディスカッション＞  ○　「いろいろな角度から，これからの教育で大事にしたいこと残したいことについて考えるきっかけをいただけました。リアルな人と人との関わりは今も昔も変わらず一番大事なことだなと感じました。そして学校はもっと地域社会に協力助けてを言っていいんだと思いました。」「様々な形で子供たちを支えている方の体感を踏まえた声に，それぞれ深い共感を覚えました。若い職員と共に職場運営していく際にもあてはまる内容でした。色々な場面で生かしていきたいと思います。」などの感想が寄せられた。パネラーの発言に共感し、ともに前向きに考えてくれた方たちが多かった。 ○　「この場に集まった大人が仙台の子供たちの未来を支えているのだと実感した一日でした。今の時代は，「教える」よりも「自ら学ぶ」「自ら育つ」そのサポートを大人がしっかりやっていくことが重要だと改めて気づきました。」という言葉からも、内容に満足してくれた人たちが多かったことが分かった。
今後の展望など	○　フォーラムも１０回目の節目を越え、今後どのような形で継続していくのが良いか考えていきたいと思う。 社会総がかりで教育を支えることを通して、子どもたちの豊かな未来を創造するという教育の未来を支えるネットワークの原点に立ち返り、さらに活動を広げて行きたい。 ○　情熱を持って教育に取り組む多くの教員を守るために、理不尽なバッシングを繰り返す保護者や地域に対して直言するという役割も変わらず果たして行きたいと考えている。 ○　新たな取組として、学校や地域へ出向いて、教育に関するミニ研修会を開くなど、教育を支える気運を醸成する活動を展開していきたい。

２、助成金使途報告書

■　収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	１００,０００	宮城生協さまより
他機関助成金	０	
自己資金	１１３,０００	会費及び自己負担金
弁当代	１６,０００	スタッフ自己負担
銀行利息	１０２	
その他（繰越金）	３４,３４２	前年度繰越金
合計	２６３,４４４	

■　支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
諸謝金	報告書編集者金 パネラー交通費	６０,０００ （４０,０００）	３５,０００ （３５,０００）
印刷製本費	報告書作成印刷、チラシ印刷	６０,０００ （２０,０００）	３３,１７０ （２５,０００）
通信運搬費		２０,０００	０
消耗品費		２７,０００	０
会議費	茶菓子、弁当等	４５,０００	２３,５１１
借損料	会場使用料	６５,０００ （４０,０００）	４６,３１０ （４０,０００）
繰越金		８７,０００	０
合計		２７７,０００ （１００,０００）	２６３,４４４ （１００,０００）

＊用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

３、送付必要書類

① 福祉活動助成金　助成活動報告書
　プリントアウトしたものを１部郵送、データもメールでお送りください。
② 領収書のコピー（郵送）
③ 成果物（活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送）
　＊写真は郵送とメールで送ってください。

第10回

教育の未来を支えるネットワークフォーラム

報告書

昭和100年

子どもたちの育ちを支えるために…

今，何を残す？
何を変える？

令和7年11月29日(土)13:00～16:00
宮城野区文化センター パトナシアター

主催　教育の未来を支えるネットワーク
共催　宮城県教育委員会/仙台市教育委員会
後援　宮城県PTA連合会/宮城県高等学校PTA連合会/宮城県高等学校定時制通信制教育振興会/仙台市PTA協議会/仙台市立高等学校定時制教育振興会/公益財団法人仙台こども財団/河北新報社/朝日新聞仙台総局/読売新聞東北総局/毎日新聞仙台支局/NHK仙台放送局/tbc東北放送/仙台放送/ミヤギテレビ/khb東日本放送

※順不同

開会行事

主催者挨拶　教育の未来を支えるネットワーク代表　松坂 宏造



10年前の2016年，子どもたちをどのよう育てるかを共有し，主体的・創造的に自ら行動する子どもたちを育てるための環境づくりをしたい，学校，家庭，地域，企業も巻き込んで社会全体で輪を作りたい，教育委員会や学校の応援団になりたいと，本ネットワークを立ち上げました。今年は昭和100年でもあります。時代が急激に変化し，情報が溢れ，便利な世の中になりました。教育改革，働き方改革，保護者の意識の変化と，学校現場も同様です。このような時代，何を残し，何を変えていったらよいのかを，本日のテーマにしました。原点に戻り，子どもたちにとって良い環境を作っていくために，お忙しい中ご参会くださった皆様と共に，考える時間としたいと思います。

祝辞　宮城県教育委員会 教育長　佐藤 靖彦　様　（代読　義務教育課長　本田　史郎　様）



日頃より子どもたちの教育にご尽力いただいているネットワークの皆様，先生方，教育関係者の皆様に感謝申し上げます。コロナ禍の経験で，学校が確かな学力を身に付ける学びの場であること，自己を知り他者との人間関係を学ぶ場としてかけがえのない場であることが再認識されました。学校が地域と連携し協働することは極めて重要であり，今回のテーマは，教育に携わる者が日々考えていかなければならない，本質的な問いです。目まぐるしく変化するこの時代，多様な立場の大人が，対話と信頼をもとに協働して取り組むことは，子どもの確かな成長につながります。10年にわたり協働の場を築いてきたことは大変意義深く，県としても理念を共有し，学校を後押しし，子どもたちの学びを支えてまいります。

祝辞　仙台市教育委員会 教育長　天野　元　様　（代読　学びの連携推進室長　堀越　俊秀　様）



仙台市教育基本構想2021の最終年度を迎え，これまでの取組を振り返り次期教育構想策定に向け検討を進めているところです。仙台市立の全ての学校が，コミュニティ・スクールとして地域と共に歩む学校づくりに取り組んでおります。社会に開かれた教育課程の実現に向け，社会全体で子どもを育てる環境づくりを進めていくためには，学校運営協議会や学校支援地域本部，PTA,地域の関係諸団体と連携・協働した取組を図ることが一層重要となります。将来が複雑で困難な時代，子どもたちに，変化を前向きに捉え自ら未来を切り拓く力が求められる今，大人ができる事に焦点を当てた本フォーラムは，大変意義深いものと存じます。ご参会の皆様と成果を共有し，ネットワークがより広く強固なものになることを期待いたします。

来賓紹介

宮城県PTA連合会　会長　　平吹　淳　様
仙台市PTA協議会　会長　　大曽根 学　様
宮城県高等学校定時制通信制教育振興会
会長　　岡本 浩行　様



主催者　　ご来賓

パネルディスカッション

野澤　初めに小劇をご覧になられての感想をお聞きします。

齋藤　教員だった母を思い出しました。実の子より教え子の方を向いていることにやきもちを焼いたかもしれません。教師の子どもへのまなざしは，昔も今も変わらないと感じました。

髙橋　毎回，時代の流れを捉えた内容が勉強になります。教員を目指さない学生ということもありましたが，実際，宮城教育大学の学生さんの様子はどうなんでしょうか？

田辺　教育大学で学んでも，教員になることが当たり前ではなくなってきています。教育について学んだことを活かした職の選択肢が多くなっていると感じます。

阿部　小劇で伝えたかったことは，どの時代でも教員は経済的環境は十分ではなかったということ，働き方改革，部活動の外部委託についての問題提起だと思います。

野澤　会場の皆さんからもお聞きします。

★松野（柳生小）息子の進路の時のことがフラッシュバックしました。我が子を見ていなかったかもしれません。帰宅したら抱きしめたいと思います。

★丸山（南小泉中校長）我が子も私の姿を見て，中学校教員になりませんでした。でも，教員の喜びは，生徒の成長だということを忘れてはいけないと思いました。



野澤　教員志望が減少している，このままでよいのでしょうか？

阿部　部活動が残業の最大の要因という調査があり，対応が進んでいる例も増えています。高専の例で，後援会が外部コーチを雇った例があります。子どもたちの教育環境のために親が気持って取り組むこともあってよいと思います。



齋藤　学校が抱え込まずに，コミュニティスクール（CS）として取り組んだ，部活と朝の登校時間に関しての好事例があります。

原田　（寺岡小中学校学校運営協議会会長）学校と協力して学校運営協議会で部活について考え，回数と終了時刻を変えました。結果，放課後の職員室の雰囲気が良くなりました。CSとして地域と学校の関係は良好ですが，保護者にもっと関わって欲しいので，PTAについて考えたいと思います。

★髙橋（前寺岡中校長）先生方のワークライフプランを聞きました。働き方改革の目的は，単に時間を減らすことではなく本質を考えるところから始めました。

★多賀野（前榴岡小校長）先生方が，他の力を借りるとより良い教育活動ができると考えて実践している学校でした。先生方が本来の教育活動に向かう時間をどう作るかが，働き方改革の本質であると学んだ学校でした。

野澤　先生方が，自己研鑽の時間が取れることが働き方改革の大きな側面です。

齋藤　働き方改革を考えていく上で，子どもの主体的活動をセットにして考えていきたいと思います。

髙橋　先生はサービス業ではない，一方的な要求はしてはいけないと思います。一方で，先生方によっては，部活動に熱心な方もいます。PTAの他県との交流の中でも，様々な学校があるということを聞いています。

田辺　小学校では，全教科担当なので教材研究や授業準備に時間をとられますが，自分は苦労だと思ったことはありません。子どものためと思うと楽しかったんです。が，働き方改革とは乖離していますね。本来やるべきことを洗い出して，CSが働き方改革に果たしている事例を共有することが大事だと思います。

★相沢（南小泉中学校支援地域本部）職場体験先への連絡を手伝う中で，先生方との会話が増え，何をしたらよいか分かるようになってきました。学校や子どもたちと地域をつなぐ役割が担えるようになってきていると思います。

野澤　地域の中に，学校を支援してくださる方々が大勢いらっしゃるということを，若い先生方に伝えていかなければならないと思います。一方で，子どもの力を，大人は認識していないように感じるのですがどうでしょうか？

阿部　部活の回数や時間を考える時に，科学的な見方をすることも大切だと思います。寺岡中では，部活のない日の子どもたちが，自主的に活動している姿が見られます。

★髙橋（前寺岡中校長）個に合った練習の選択，部活以外の活動，塾，家族との夕食…など多様な時間の活用が増えた他，怪我が無くなるなどの成果が見られました。

髙橋　子どもの自主的な活動の場として，体育館の夜間施設開放利用の例があります。生涯スポーツの観点で中学生のスポーツを考えるという視点をスポーツ庁室伏長官から伺いました。

★首藤・千葉（登米市米山町公民館）中学生対象，公民館登録制ボランティアの活動紹介。地域づくりの一環で，地域のイベントで活躍してもらっています。

野澤　地域を離れても戻ってくるという仕組みが素晴らしいと感じ，ご紹介いただきました。子どもの力を引き出すという点で，直接学生と関わっている方，いかがでしょうか。

田辺　子どもの持つ力は変わっていないと思います。時代の目まぐるしい変化の中で，大人が翻弄されているように感じます。異なるのは社会との直接の関り不足。教員の役割は，子どもを外に出してやること，自分だけで解決するのではなく周りに助けを求めること，その体験の中で，子どもは主体性を発揮できると思います。

齋藤　児童館の館長をしている中で，子どもの力を毎日感じています。部活動がない日，中学生が来館，異学年の関りの中で育まれる力を実感しています。地域の中に，異年齢の居場所を作る縁の下の力持ちになるのが大人の役割だと思います。

野澤　子どもの力を引き出す環境づくりについて，パネリストの皆様の実践を教えてください。


Abe

阿部　外部の力を借りることで生まれる化学反応が必要だと思います。「寺岡おやじの会」は父親をPTA活動に引き込み，新興住宅団地を新しいふるさとにしたいと活動しています。「単P，市P協役員」にもなりました。「FMいずみでの中学生職場体験受け入れ」「七北田小学校の社会科情報教育講師」「中学校と地域とのつなぎ」など，教育課程にも入り込んだ学校との関りを実践してきました。サイエンスコミュニケーションとして「防サイエンスショー」を開発し，全国の学校や社会教育施設・防災イベントで講演しています。「仙台自分づくり夢教室」「宮城教育応援団」「理科特別授業」に登録し，企業の力を学校につなげる，学校の学びと実社会とのつながりを実感させる，などを念頭に活動しています。

★白谷（前宮城県教育庁生涯学習課）学校だけでは準備できないリアルだったり，子どもたちの夢や未来を切り拓く力に結びつく学びだったりを，社会全体で子どもたちに提供していくことが大事だと思っています。宮城県では「宮城教育応援団」という取組をしていますが，学校側が多忙を理由に応募が少ないことが課題です。小劇で時代による教育の変化について見せていただいたが，10年ぶりに学校現場に戻り，変容に衝撃を受けた。児童生徒一人1台のタブレットもその一つ。米作りの1年をタブレットで学ぶ，学校の周りが田んぼであるにもかかわらず。指1本で，学ばせた気，分かった気になっていないか？本物が持つ力を大事にしたいと感じています。今日のテーマは秀逸だと思います。


Takahashi

髙橋　学校・PTAとの関りのきっかけは，「南材木町小学校おやじ倶楽部」です。父親が学校に関わる機会として，年間を通して様々な活動をしています。親が先生方とコミュニケーションがとれることは，子どもにとっても嬉しいようです。実は祖父，父もPTA会長で，長い時間軸で親子理解を体感しています。日本PTA全国大会仙台大会で仙台市内のみならず全国に志を同じくする仲間ができました。コロナ禍を前向きに捉えて工夫して乗り切り，PTAフェスティバルも開催しました，東北ブロック研究大会は対面にこだわり，交流の姿を子どもたちに見せたいと思いました。PTAの現在の課題は入会問題です。東北研究大会で，親以外に信頼できる大人がいる子どもたちの自己肯定感や学習意欲，人間関係づくりにプラスの相関関係がある研究報告を聞き，PTAの存在意義を肯定できました。様々な意見を受け入れつつ，必要な変更も検討しながら，伝えていきたいと思います。研究大会の成果を，皆さんにもぜひ共有していただきたいと思います。

野澤　今回のテーマについて，田辺先生のまとめをご提示ください。

田辺　まとめるつもりはありませんが，自分なりの考えをお示しします。教育界でという限定でお話いたします。

教育会で“手放すべきもの”

1．過剰な事務負担・形式主義の文化
2．“学校だけで何とかする”という孤立構造
3．均一を求めすぎる文化（横並び・過度の同調）
4．“結果”ばかりを求める短期的評価
5．学校と家庭の「誤った役割分担」への期待

※ここで電話について2点～保護者対応に追われる担任，教育委員会対応に追われる管理職！

教育界で“残すべきもの”〈これから《も》必要なもの〉

1．学校を地域の“ハブ”とする機能
2．子どもを見る“専門性”と“教師の志”
3．子ども中心・学び中心の学校文化
4．安心して失敗できる学校づくり
5．地域・家庭と“対等に”つくる教育


Tanabe

残すべきものにAIは入れませんでした。人と人とのつながりを大事にしたいと考え，先生方，地域の皆さんに頑張って欲しい，私も頑張ります。

野澤　今日，話題になったことをまとめていただき，感銘を受けました。

齋藤　震災もコロナ禍も経験して，私たちは人のつながりの大切さを知りました。大人が立場を超えて同じ方向を向き，しかも楽しんでいる姿を子どもに見せる，そうすることで子どもたちは安心し，安定します。地域にいる大人から本物を学ぶチャンスを奪ってはいけない。子どもや若者はパートナーであり，大人が付き合い方を変えていく必要があると思います。家庭の役割も大事，保護者が市民化して一緒に責任をもって社会の子どもたちを育てることがキーワードになると思います。今日は楽しかったです。

阿部　変化することは必要，必然です。変えられないものがあることも前提として，柔軟な発想が必要です。学校でも，学級でも，家庭でも，子どもの姿は大人の表情で決まります。だから，先生が良い表情ができるように何を変え，何を残すかという視点で考えていきたいと不思いました。

野澤　最後に，顧問の木村先生にお話しをいただきたいと思います。

木村　まず，10回を重ねたスタッフの皆さんのご努力に感謝します。小劇にはたくさんのことが盛り込まれていましたが，教員の最も大切なことは，子どもと接することということを改めて思いました。パネルディスカッションも含めて感じたことを3つお話しします。1つは，子どもの力を信じること，そのために，大人が子どもの力を見取る力を付ける必要があるということ。2つ目は，人の力を借りる，皆で知恵を出し合う大切さ。3つ目は，学校は楽しさと感動を作り出す場であるということ。伝統を守りつつ，新しいものを子どもと一緒に付け加えていくことが出来たらと思います。大変勉強になりました。


Kimura

野澤　心強いお話をありがとうございました。主体的にご発言いただいたパネリストの皆様に，大きな拍手をお願いします。

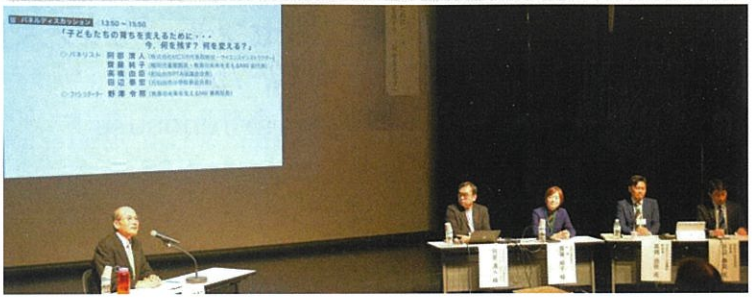
パネリスト

前仙台市PTA協議会会長	髙橋　由臣
(株)MCラボ社長・サイエンスインストラクター	阿部　清人
榴岡児童館館長・教育の未来を支えるNW副代表	齋藤　純子
元仙台市小学校長会会長	田辺　泰宏

コーディネーター

教育の未来を支えるネットワーク事務局長	野澤　令照

★印は，会場からのご発言



教育小劇「こころにふく風」





小劇名コンビの二人～息もぴったり





どうして俺たち，子どもと顔を合わせているのだろうか？
教員が子どもの前にいることはどういうことか？





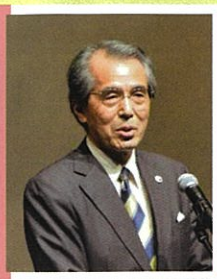




脚本・演出	NPO法人 劇団仙台小劇場	石垣　政裕
出演	吉沢浩一郎（中学校教員）	岡本　浩行
	吉沢　幸恵（その妻）	田中　咲葵
	三津谷昌子（中学校教員）	佐藤亜矢子
	岩淵　夢子（中学生）	岡本　夢華
	岩淵久左衛門（夢子の叔父）	佐藤　大地
	教頭	くまごろう
	校長の声	佐々木公明
スタッフ	舞台監督	小松　慶子
	演出助手	田中　咲葵
	舞台	熊谷　和典
	音響	髙橋　直人
	衣装	きよみ

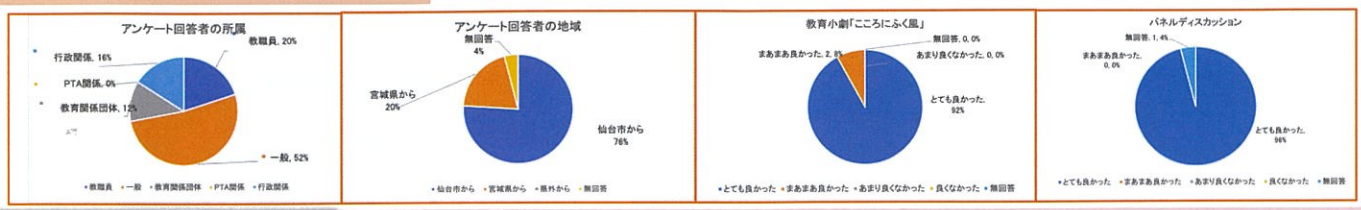
開会行事

閉会挨拶　教育の未来を支えるネットワーク副代表　　山口 哲男



10年前，私たちのネットワークは，先生方を支えようという趣旨で立ち上げました。課題も出し合える，皆で考える場を作ろうと思いました。以来，多くの皆様のお力をいただき，資金のご協力もいただきここまでやって来ることができました。11年目からのこれからの活動を検討していますが，皆さんの学校・地域に出向き，語り合いたいと考えています。お申し出いただければと思います。先生方が，伸び伸びと思いをもって教育に専念できる環境づくりや，皆で考えることで子どものための何かを生み出せるように，微力ながらお手伝いができればと考えています。会場には，こども財団の宮野副理事長もおいでになって，財団の企画のご紹介もいただきました。大人の学びは子どもたちへのプレゼントになると思います。お集まりいただいた会場の皆様に感謝申し上げますと共に，これからも一緒に歩むことをお願いして閉会の挨拶といたします。ありがとうございました。

アンケート結果　回答数25名



教育小劇「こころにふく風」

・時代によって変わるもの変わらないもの，教員の置かれた立場を再考する機会となりました。
・２０分という短い時間に多くのことを盛り込みつつわかりやすいお芝居で良かったです。
・久左衛門が良かったです。
・皆さんの演技がすばらしいと感じました。もっとたくさんの方に見ていただきたいと思いました。
・教育大を出たのに教員にならなかった人間なので刺さる場面がたくさんありました。AI学習などが発展する中「生」でいる意味というのを自分の仕事にも照らし合わせて改めて考えたいと思いました。
・教員としてあり方を考えることができました。
・すごく楽しくてワクワクする内容で勉強になりました。
・「生」という漢字を使った言葉を普段よく使っています。生活，生命，生きものなど。「なま」と読むことはほとんどなかったのですが，「生＝リアル」というのは本当に大事だと痛感しました。
・AIが発展する中でも，人としての生き方を教え育てる教師の役割は今も昔も共通して大事なことはあるのではと考えさせられるテーマの小劇でした。いつの時代も皆悩みながら子どもたちと向き合ってきたのだなと思いました。訓導という言葉は初めて知りました。
・教員が何のためにあるのか，誰のためにいるのかを意識しないと，なくてもよい職業だなと感じました。
・教育をめぐる様々なホットな論点が重層的に脚本に盛り込まれており，ディスカッションにつながる大変すばらしい内容だと感じました。昭和100年を迎えた今教育現場の「不易流行」を考えることができました。
・人気のない教職ですが未来に欠かすことはできない職場ですので志ある人には頑張ってもらいたいと思いました。
・教育現場のリアルを実感を持って演じられていて様々考えさせられました。様々な受け取り方，感じ方があると思いますが，それぞれ“こころにふいた風”を大切に，子どもと向き合っていければと思います。
・考えさせられる内容の濃い演劇でした。「教員の仕事は子どもと向き合うこと」という言葉は，教育の原点であることを改めて認識しました。キャスト，スタッフ共にすばらしかったです。

パネルディスカッション

・子どもたちは責任を持って何かを成し遂げることで自信につながります。学校でも地域でも子どもの力を引き出して笑顔を輝かせることができるよう担任，嘱託社教，子供会世話人として頑張りたいと思います。
・どの方も聞き応えがありました。
・ちょっぴり長かったですが，逆にたっぷりと時間があったのでパネラー，そして，会場の声を聞くことができ，大変勉強になりました。
・「働き方改革」と言っても早上がりを強要されるだけで実質の業務量は変わらないのかなと思っていたので，実際の改善例や更なる課題，目標を聞いて認識が変わりました。「何かを変えるには力がいる。自分だけが頑張らなくてもいろんな知恵を借りて様々な活動ができる」という言葉には勇気をもらいました。
・いろんなイベントや体験の際に子どもたちが持ち帰れるもの作り上げたものというリアルかつ持続的な喜びが加わればいいと感じました。
・いろいろな角度から，これからの教育で大事にしたいこと残したいことについて考えるきっかけをいただけました。リアルな人と人との関わりは今も昔も変わらず一番大事なことだなと感じました。そして学校はもっと地域社会に協力，助けてを言っていいんだと思いました。
・弟の中学校では来年度から部活動が完全移行になり身近に感じました。大人が本気になって動いて，学校のため子どものため究めたい。
・登壇者，フロア，それぞれの方の経験と工夫にあふれた内容に感銘を受けました。
・本物に触れる教育活動の推進をめざしたいと思います。子どもと接する時間をもっと保護者に持ってほしい。（特に父親）
・様々な形で子どもたちを支えている方の体感を踏まえた声に，それぞれ深い共感を覚えました。若い職員と共に職場運営していく際にもあてはまる内容でした。色々な場面で生かしていきたいと思います。
・「働き方改革」「PTA」等について深く考える機会となりました。
・取り組み，部活動への対応，子どもの力を信じるなど貴重な話題が出てそれを深められたパネルディスカッションでした。これからの教育に大切なヒントがたくさん出されたと感じました。

全体を通しての感想

・このネットワークを生かした保護者へのアプローチが必要だろうなと，子供会世話人として思います。
・会場の方々のご発言も興味深く良かった。
・子どもたちを取り巻く社会全体の問題提起であったと，とても鋭い着眼点にすばらしい会であったと感じました。
・もっと多くの人に聞いてほしかったです。（先生方！）もったいないです。
・教員の働き方改革の本質は何なのか，子どもたちが主体的に取り組むことの本質は何なのか，考えさせられた時間となりました。反省することばかりでした。
・教育に関わるパネラーの皆様のお話はとても参考になるものばかりでした。もっとたくさんの現場の先生たちに聞いてほしいと感じました。
・教員の課題は，自分でなんでもやろうとするところ。型にはめようとするところと感じています。たくさんの協力者を得て，多様な方々と関わることで豊かな学びをつくりだしていきたいと思います。たくましくしなやかな先生たちを育てていきたいと思います。
・具体的な小学校，中学校，PTAの話が聞けて参考になりました。教育関係の集まりにとどまらず，もっと宣伝をして広い会場で教育にあまり関係のない多数の市民が集まるフォーラムにすることが大切だと思います。私も宣伝します。
・いろいろな方のお話が聞けて本当によかったです。勉強になりました。子どもの力を信じて考えることで今日のテーマの答えに近づくのかなと思いました。先生方ももっと他の力を頼りにして心身ともに余裕を持てるようになると子どもたちにも伝わるのかなと思って聞いていました。今日参加できて良かったです。
・先日中学生の職場体験の受け入れがありましたが，大学生のインターンシップとほぼ同じことができてしまう子どもたちを見てビックリしました。今の時代は，「教える」よりも「自ら学ぶ」「自ら育つ」そのサポートを大人がしっかりやっていくことが重要だと改めて気づきました。
・学校，地域，家庭どれも子どもたちの健やかな育ちには欠かせないもので，それぞれに大切な役割があるのだと思いました。どんなに世の中が便利になり技術が発展したとしても人を育てるのは人なのだと改めて感じることができました。パネリストの皆様のお話，そして会場の方のお話，とても勉強になりましたし，共感することもたくさんありました。これからの学校教育をより良くつくっていくために今日感じたことを少しでも生かしていければと思います。
・学生という立場で参加して貴重な学びを得ることができました。教員になる上で本来重きを置くべきことである「子どもと接すること」を達成するためにどんなことをすべきか，どのように助けを求めるか等々，責任と使命感を持って来年度から働きたいと思いました。
・こういう場に現役の（特に若い世代の）先生がたくさん参加してくれるといいですね。
・「子どもの力」を信じて伸ばしてあげる環境づくり，外部の力を遠慮なく借りられる関係づくり，学校の内と外でも「子ども」と向き合える体制づくり，多くのことを考え大変貴重な機会をいただきました。
・パネラーの方から提示された残すべきもの，なくしてもよいものがとても参考になりました。初めて参加しましたが有意義でした。
・最後のご挨拶で，こども財団についてもご紹介いただきありがとうございました。ともに子ども，子育て社会を支える団体として頑張ってまいりますので，今後とも連携のほどよろしくお願いいたします。
・会場の参加者からの“生の声”が聞けてよかったです。パネラーはすばらしい方ばかりでしたが“おなじみの方”ばかりであったので，若者やPTA活動をはじめたばかりの方など「新顔」の登場があると，また違った風が吹いたのではと感じました。「教員の大切なことは子どもと接すること」その通りで，反省しなければならないと感じました。木村先生の最後のお話，まさに感動いたしました。この場に集まった大人が仙台の子どもたちの未来を支えているのだと実感した一日でした。
・ネットワークフォーラムを10年も継続された熱意とご努力に敬意を表します。このフォーラムが今後，各地域にどう拡大していったら良いかを考えています。

教育の未来を支えるネットワーク

●趣旨

宮城県や仙台市の教育のさらなる充実・発展 を目指し，社会総がかりで学校教育や社会教育を支援する仕組みを構築することによって，広く社会の中で，教育への理解を深め，子どもたちの豊かな未来の創造に寄与することを目的としています。

●主な活動

①協働に取り組もうとする地域および学校に対する情報の提供
②フォーラムまたは広報誌による事例の紹介
③学校およびPTA関係者，市民，NPO，企業等が交流する場の設定
④個別の教職員の悩み等に対するサポート活動
⑤その他

●会員の募集

趣旨にご賛同いただける正会員または賛助会員を，随時募集しております。

正会員	年会費　10,000円
賛助個人会員	一口　3,000円から
賛助企業・団体等会員	一口10,000円から

振込先銀行 支店名　　七十七銀行 仙台東口支店
口座番号　普通 5004458
口座名義　教育の未来を支えるネットワーク 代表 松坂宏造

●役員/世話人

顧　問	髙橋　仁（宮城県教育委員会 元教育長/仙台大学学長）			
	荒井　崇（仙台市教育委員会 元教育長）			
	木村 民男（東松島市教育委員会 元教育長・石巻専修大学教授）			
	熊野 充利（大崎市教育委員会 教育長）			
	鈴木　洋（大河原町教育委員会 教育長）			
代　表	松坂 宏造（仙台市教育委員会 元教育委員長）			
副代表	山口 哲男（仙台自分づくり教育研究会 会長）			
副代表	齋藤 純子（NPO法人 せんだい杜の子ども劇場 専務理事）			
事務局長	野澤 令照（利府町文化交流センター「リフノス」センター長）			
世話人	阿部 清人	佐藤亜矢子	佐藤　憲子	石垣　政裕
	庄子　修	伊藤　長悦	高山　典子	岡本　浩行
	數本 芳行	福島　邦幸	久保木潤子	堀越　清治
	小岩 孝子	佐藤美知子	霜山　清	大友　重明
	菅野　茂	猪股　亮文	田辺　泰宏	今野　隆

●お問い合わせ先

利府町文化交流センター「リフノス」　野澤 令照
TEL　090-4637-7591
E-mail　y.nozawa@rifunosu.jp

発行　2026年4月